

無料の書籍を使う： 青空文庫と Project Gutenberg を中心に

Use of Electronic Books: Mainly Aozorabunko and Project Gutenberg

諏訪 邦夫、立原 敬一、玉城 聡、石田 等

Kunio Suwa, M.D., Keiichi Tachihara, Satoshi Tamashiro, M.B., Hitoshi Ishida, Ph.D.

帝京短期大学ライフケア学科臨床工学専攻

Department of Clinical Engineering, Faculty of Life-care, Teikyo Junior College

要 旨

「無料の書籍を使う」と題して、青空文庫と Project Gutenberg を扱う。基本的に著作権の切れた作品を中心とし無料公開されているシリーズである。

青 空 文 庫：日本の作品が中心で、外国作品も日本語訳のあるものを含む。2015年 6月の時点で1万点以上が掲示されている。他に多数の作品が「作業中」として、作品名は掲示されているが、内容は掲示されていない。

Project Gutenberg：2015年 6月の時点で3万以上である。原則として英語訳だが、他の言語もある。時に、朗読のMP3ファイルが同時に公開されている。

この他に、著作権は切れていないが、著者あるいは出版社の意向で無料公開されている作品も少なくないで、その例も含めて考察する。

Summary

We discussed the use of "Electronic Books". They are mainly from Aozorabunko and Project Gutenberg. Both are all in public domain. The former is a series of Japanese literatures, including a few Japanese translation from other languages, consisting more than 10 thousand literatures. The latter is a series of more than thirty thousand literatures, mostly in English, including many English translations from other languages. In addition to those mentioned above, we discussed many books in open access while their copy-right is still maintained.

青空文庫と Project Gutenberg を中心に、「無料の書籍を使う」問題を考察します。

インターネットのお蔭で、論文の入手が極端に容易になったが、それだけでなく著作権の切れた日本及び世界の作品の入手が容易になりました。まさに、書籍愛好家の天国と言えそうです。

I. 青空文庫

1万点を超える作品群からなるので、入手できて楽しめる作品は極端に多いが、便宜上下のグループに分けてみました。

I-1) いわゆる大文豪の作品で以前から愛読してきたもの。著者の例としては、夏目漱石・森鷗

外・島崎藤村・樋口一葉など。前2者はほぼ全作品が掲示されており、藤村も最近全作品の掲示が完了した。また、外国人作品で邦訳がここに公開されている例として、ロマンランの「ジャン・クリストフ」があります。

I-2) 「文豪」とされる方々の作品で、私自身はあまり馴染んでいなかった方々のもの。著者の例としては、泉鏡花・永井荷風・太宰治・室生犀星・堀辰雄・菊池寛・宮本百合子など。

I-3) 文学作品の域外にあるが、子供の頃や若い頃に読んだことのあり読み直して楽しんだもの。著者の例としては、下村湖人（次郎物語）・海野十三（SF）・野村胡堂（捕物帳）・

岡本綺堂（古典ミステリー）・佐々木邦（子供向けユーモア作品）・寺田寅彦（随筆）・中谷宇吉郎（随筆）、ヴェルヌ（15少年漂流記、英訳がみつからないが森田思軒の文語文の邦訳あり）

- I-4) 大衆作品とされて、若年時には読む機会がなかったもの。著者の例としては、吉川英治・中里介山・林不忘（丹下左膳）
- I-5) まったく知らなかった作品群。著者の例としては、葉山嘉樹（プロレタリア文学）・久生十蘭・兼常清佐（音楽評論）・加藤文太郎と小島烏水（登山家）・小酒井不木（ミステリー、随筆）・黒岩涙香（ミステリー）・牧野信一（小説と随筆）・直木三十五・織田作之助・坂口安吾・須川邦彦（漂流記）・蘭郁二郎（ミステリー）・豊島与志雄（翻訳家とのみ認識。著作を知らなかった）・柳田国男（研究者）、河口慧海（僧侶）
- I-6) 明治以前の作品群：源氏物語（与謝野晶子の現代語訳が公開）、徒然草、歌集（万葉集・古今集・新古今集・小倉百人一首）、方丈記、奥の細道、北槎聞略（大黒屋光太夫の漂流とロシアでの経験とメモを桂川甫周が聴き取って記録したもの）、翁草、本居宣長の作品（菅笠日記、遠鏡）など。

この中で、特に分量が多くて読み応えのあったのは、吉川英治（宮本武蔵、太平記、三国志）と岡本綺堂（半七捕物帳、世界怪談名作集）、河口慧海著『チベット旅行記』、それに直木三十五・織田作之助・坂口安吾・豊島与志雄などの作品群であった。

青空文庫にはないが、自分の興味でテキスト化した作品がいくつかある。一部は、著作権が存続している。

徳富蘆花：思出の記、この作品は青空文庫用に私がテキスト化したのが、その扱いが青空文庫の規定にそわず、また校正者も名乗り出なかったのもそちらでは公開できなかった。後に自分のホームページで公開した。（http://book.geocities.jp/kunio_suwa/）

深沢七郎著『樞山節考』、戸板康二著『グリーン車の子供』：この二作品はあまりの名作と考え、しかも短いので、自分のパソコン内の情報とすべくていわゆる「自炊」した。未公開。

木下是雄著『理科系の作文技術』：これも著作権は存続しているが、大学の図書館が廃棄する書籍にあった

ので、「自炊」した。未公開。

II. Project Gutenberg

こちらはフィクションもあるが、科学関係の作品がむしろ多い。

II-1) いわゆる名作としては Alcott "Little Women"、Amicis "Cuore (英訳)"、Defoe "Robinson Crusoe", Dickens "David Copperfield", Duma "モンテクリスト伯 (英訳)"、Owell "1984" "Animal Farm", Swift "Gulliver's Travels" (MP3形式で公開されている朗読も)、Metta Victoria Fuller Victor "A Bad Boy's Diary" (佐々木邦『いたづら小僧日記』の原作) それに Andersen・Grim・Carrol・Doyle、イソップ、Hawthorne, London、小泉八雲（一部邦訳あり）の作品群などがある。

II-2) ノンフィクションの科学系の作品が多い。Hooke "Micrographia" は図が素晴らしい。Satow "A Diplomat in Japan" (翻訳書もあるが公開されていない)、Lavoisier の「化学原論：英訳」、Withering 「ジギタリスの話：An Account of the Foxglove and some of its Medical Uses」、Shackleton "Endurance" (冒険記)

III. 青空文庫と Project Gutenberg 以外に、医学書・科学書などで無料公開されていて読んだ作品群。

III-1) Petty, Adventures of Oxy-Phile : Thomas Petty 氏は、有名な呼吸器病学者で先年亡くなりました。数年前に同じ著者が中心で "Adventures of Oxy-Phile 2" という著書を読んだところ興味深かったので、インターネットを検索したところ、続編の前篇というべき同書が見つかりました。主に自宅酸素療法を扱っています。

III-2) Schrodinger, What Is Life? 物理学者でノーベル賞受賞者である著者が、生物学に関する思い、生命への疑問を表明した有名な作品です。上記タイトルで見つかりますが難物です。

III-3) 2011年夏に発生した北海道トムラウシ山系の

トムラウシで10人近い人が低体温症でなくなると言う大遭難事件の正規報告書です。(http://www.jfmga.com/pdf/tomuraushiyamareport.pdf)

- Ⅲ-4) 鈴木牧之著 北越雪譜：岩波文庫など多種の版がありますが、原文を電子化したものが長野電波研究所の頁から入手可能です。(http://www.i-apple.jp/hokuetsu/1/) また、私自身が現代語訳して図も加えて公開もしています。(http://book.geocities.jp/kunio__suwa/)

- Ⅲ-5) 楽譜と音楽：“Petrucci Music Library” というサイトで大量の楽譜と解説、それに一部は音楽自体も公開されています。(http://imslp.org/)。楽譜はすべて有用です。音楽は録音の古いものが多く、みじめな音のものも少なくありませんが、少なくとも一部は有用です。

- Ⅲ-6) Krakauer. Into Thin Air：日本語で『空へ』（山と溪谷社）というタイトルで翻訳出版されている作品で、1996年のエベレストでの遭難事件を扱った作品で、著者はその時に一緒に登頂して生き残った数少ない一人でジャーナリストです。“Outside”誌という雑誌の記事です。
http://web.archive.org/web/20101127230508/http://outsideonline.com/outside/destinations/199609/199609_into_thin_air_1.html

- Ⅲ-7) 日本語で『グリーン著青木薫訳 宇宙を織りなすもの 時間と空間の正体 上下 草思社、東京、各2200円』として2009年に出版されましたが、その直後に原本が公開されました。
B.Greene: Fabric of the Cosmos. Space, Time, and the Texture of Reality. 2004, Random House, Inc., New York. (インターネットでオープンアクセス) (http://www.4shared.com/document/q1Ulv9Du/The_Fabric_of_the_Cosmos_-_B_G.htm)
内容からいって、英語で読みにくいことはありません。

句でインターネットを検索しました。興味深い事項も得られています。

電子ファイルの読み方：私は日本語でも横書きのまま読んでいます。慣れれば不自然でないと感じますが、それだけでなく、自分自身が横書きの文章を書くことが多い点にも関係していると解釈しています。

文章の読み方としては、原則としてテキストファイルで、ソフトウェアは使い慣れたエディターで読みます。そのほうが指の動かし方などが楽です。元のPDFファイルやMS-Wordファイルのままでは、文字の大きさや画面配置が原書籍側で決まってしまう、文字サイズや動きの制約が大きくて読みにくいと感じます。メモを入れることと文章の改変：テキストファイルをエディターで読む理由の一つが、メモを書きこむのが楽という事実が重大と感じます。書評ないし読書のコメントを加える際に大幅に役立ちます。

場合によっては、文章自体をいじることもあります。明治時代の作品などで“ぬ”や“系”などが数多く出ると違和感が強いので、“い”や“え”に置換して読むことがあります。また、ごく一部の文章で、「・・・・・・・・・・のである。」という表現が極端に多くて読みにくいことがあるので、その場合は除去します。これにもエディターの強力な編集機能が有用です。

IV. 特殊テーマと私の使い方

特殊語句による検索：上記に挙げたもののほかに、まったく自己の趣味から、「鉄道」、「野球」などの語

